

令和6年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学教授	
研究テーマ	夜間の外出活動の質向上に資する交通環境改善に関する研究	
<p>24時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の四要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが重要な視点であるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。申請者らは、これまでの研究プロジェクト等において、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を認識している。また、コロナ禍も収束し、人々の夜間の外出活動が再び活発化する一方、バスやタクシー等の公共交通や運転代行等は利用者数減少によりサービスレベルを低下せざるを得ない状況にある。特に、夜間の飲酒を伴う活動参加においては、帰宅時の交通手段が制限されることになるため、公共交通のサービスレベルや繁華街における歩行環境の安全性や快適性およびその情報提供等が、重要な要因となるものと考えられる。</p> <p>以上の背景から本研究は、アフターコロナにおいて、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の外出活動に参加でき、生活の質を向上させる交通環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を考慮した上で、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。特に、夜間の外出活動に関する情報提供、公共交通の新設・サービスレベルの改善や繁華街の街路環境の改善による夜間のアクセシビリティ向上効果および飲酒活動増加可能性に着目し、以下の研究方法によって研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none">・夜の都市と交通、人々の生活活動に関する海外・国内の関連文献のレビュー・我が国および海外諸都市の、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等に関する事例調査・パーソントリップ調査および公共交通オープンデータ（GTFS データ）を用いた、夜の帰宅交通の実態およびアクセシビリティに関する分析・住民や来街者に対するインタビューおよびアンケート調査による、夜間の外出活動に関する情報提供、公共交通の新設・サービスレベルの改善（宇都宮のLRT、福井の北陸新幹線、小山のコミュニティバスなど）や繁華街の街路環境の改善による夜間のアクセシビリティ向上効果および飲酒活動増加可能性の検証。		